



# 西中学校通信

第2号

自主的に考え、正しく行動できる生徒

＜自立と自律＞

## 若き日のリンカーン

歴史の教科書にも出てくる有名なアメリカ合衆国の第16代大統領であり、最も偉大なアメリカ大統領と言われ、「奴隷解放の父」と呼ばれるエイブラハム・リンカーンは、若いころ、地方の田舎町に住んでいました。その頃のリンカーンは、いろいろな仕事を転々としながら、法律家になる夢を持っていました。恋人のアンも、その夢を応援していましたが、リンカーンは迷っていました。

あるとき、恋人のアンが亡くなり、悲しみにくれるリンカーンは、この先の自分の生き方について悩み苦しみました。このまま、ここにいるか、それとも、法律家になる挑戦をするか。

悩んだリンカーンは、恋人だったアンのお墓の前に、1本の木の枝を立て、枝の倒れた方向で決めようと考えました。

自分の方に倒れたら、このまま、ここにしよう。

アンのお墓の方に倒れたら、法律家に挑戦しよう。

枝は、アンのお墓の方に倒れました。法律家に挑戦です。

枝が倒れた時、リンカーンはつぶやきました。

「私は、わざと枝をお墓の方に倒した」

もし、リンカーンが、本当に、自分のことを偶然にまかせて決めていたら、その後、大統領になることはできたのでしょうか。

生徒の皆さんにも、自分の人生に関わる選択をする時期が必ず来ます。3年生の高校入試は、最初の人生に関わる選択かもしれません。その選択が、結果的に成功なのか失敗なのか、選択する時には、誰にもわからないことです。

選択を後悔しない方法は、自分で考え、自分で選択し、その責任も自分で負うことだと考えます。

リンカーンも、偶然に任せず、自分の意志で枝を倒しました。

人からの助言は、自分の考えをまとめ、選択・決定する時に大変参考になりますが、人の意見に左右され自分の考えなしに選択・決定した場合は、自分で責任を負う覚悟もできず、後悔することになりかねません。

自分で決めた道を、自分の足で歩むことができれば、たとえ壁にぶつかっても、それに立ち向かい、乗り越えていくことができるのではないかと考えます。